

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年	2	選択
担当教員			
豊田 正明			
A (会計学科)	S (専門科目)	LW (法律)	201 (中級科目)

授業のねらい（概要）	会計学科で学ぶ上で、民法、商法、会社法など、ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得し、経済社会における法の意義や役割について理解するとともに、具体的な経済事象を取り上げて法律的に考察し、順法精神を基盤として、適切に判断して行動する実践的な能力と態度を涵養する。 項目を大きく、(1)経済社会と法、(2)権利・義務と財産権、(3)取引に関する法、(4)会社に関する法、(5)企業の責任と法に分け、それぞれ基礎的・基本的知識から応用知識、実際の判例を検討することで、ビジネスに必要な法規等の理解を深める。
授業計画	第1回 【遠隔】(前期のみ)経済社会と法(1) 法の意義と役割、現行の法体系と最高法規、公法・私法の区別について理解をする。法の基礎を学ぶ。 予習(時間)：図書館等において「法学」等の法律の基本書に目を通しておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第2回 【遠隔】(前期のみ)経済社会と法(2) 法の種類と裁判制度、裁判外紛争処理機関について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第3回 【遠隔】(前期のみ)経済社会と法(3) 国際法と情報化社会における法制度 国際法と情報化社会における法制度について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第4回 【遠隔】(前期のみ)権利・義務と財産権(1) 民法の原則、権利行使とその限界、法人の種類と権利義務関係について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第5回 権利・義務と財産権(2) 物権とは、物権の種類、債権とは、債権の種類、債権の発生原因について理解し、具体的な問題についてあてはめ、より深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第6回 【課題】(前期のみ)権利・義務と財産権(3) 知的財産権とは、知的財産権の侵害、知的財産権の侵害と国際的な知的財産権争訟について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第7回 【課題】(前期のみ)取引に関する法(1) 契約の種類と意義、意思表示の効果、契約の効力、契約の自由とその限界、契約の成立・無効と取り消しについて理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第8回 取引に関する法(2) 売買契約と貸借契約、売主と買主の権利・義務、債務不履行責任、人的担保と物的担保について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第9回 取引に関する法(3) 手形と小切手の特徴及び利用、金融取引の現状と課題、金融商品取引法の概要及び電子記録債権及び電子資金移動の現状と課題について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第10回 【課題】(前期のみ)会社に関する法(1) 会社の種類と特徴について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習(時間)：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。(120分) 復習(時間)：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。(120分) 第11回 会社に関する法(2)

	会社の資金調達、株式及び社債の発行、金融機関からの借り上げについて理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習（時間）：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。（120分） 復習（時間）：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。（120分） 第12回 会社に関する法（3） 企業再編の形態、我が国における企業の合併及び買収とその現状と課題について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習（時間）：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。（120分） 復習（時間）：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。（120分） 第13回 企業の責任と法（1） 法令順守（コンプライアンス）の重要性と具体例、説明責任（アカウンタビリティ）の重要性と具体例について理解する。 予習（時間）：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。（120分） 復習（時間）：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。（120分） 第14回 企業の責任と法（2） 公証制度の概要、和解・調停・仲裁の目的、手続、効力及び民事訴訟制度、国際紛争とその原因、企業倒産に関する法制度について理解し、具体的な問題についてより深い理解をする。 予習（時間）：配布したプリントを読み、わからない用語等は調べておく。（120分） 復習（時間）：講義した内容をプリントやノートを見ながら知識の再確認・定着を図る。（120分） 第15回 まとめ これまでのまとめ、重要な個所の復習と知識の再確認をおこなう。 予習（時間）：これまで配布したプリントを読み、わからない箇所等は復習しておく。（120分） 復習（時間）：期末試験に向けてこれまでの内容を再確認する。（120分）
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	専門的分野の学びを実務や社会で応用できる能力、協働力、情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢を身につけることができます。 【身に付くスキル】 職業倫理感・協働力
到達目標	会計学科の学生として、ビジネスに必要な法規等に関する基礎的及び基本的な知識を習得する。 経済社会における法の意義や役割について理解するとともに、経済事象を法律的に考察し、適切に判断して、行動する能力を習得する。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	小テストを2回程度行い、その内容を解説する。
履修上の注意	できれば関連法領域にも目を通して欲しい。 予習復習をしっかりと行うこと。
成績評価の方法・基準	学修意欲20%、期末試験80% 「期末試験」は、コロナウィルス感染状況並びに社会状況等の諸般の事情を考慮し、「最終レポート」にて代替することがある。その場合には、melly及び授業内において実施方法の詳細と評価基準を告知する。（前期のみ）
教科書	なし
参考書・教材	【教材】プリントを配布する予定
備考	講義科目／実務家教員による授業 2020年度は、6、7、10回を課題研究として学修する。（前期のみ） 第6回 「権利・義務と財産権（3）」につき、知的財産権にはいかなるものがあるか調べ、その違いをレポートとして作成する。レポートの指示・確認等を5、8回の対面授業やmellyの指示で行う。全体で330分の学修を想定している。 第7回 「取引に関する法（1）」につき、契約にはいかなるものがあるか調べ、その違いなどを大まかにまとめ、レポートを作成する。レポートの指示・確認等を9、11回の対面授業やmellyの指示で行う。全体で330分の学修を想定している。 第10回 「会社に関する法（1）」につき、会社にはいかなる種類があるかを調べ、それはどのような特色を有するものかを大まかにまとめ、レポートを作成する。レポートの指示・確認等を12、13回の対面授業やmellyの指示で行う。全体で330分の学修を想定している。
教員との連絡方法	メール（講義の初めに周知する）